

IASB/FASB Board Meeting Flash – Insurance Contracts

2014年1月に開催された保険契約に関する IASB会議の概要



2014年1月、IASBは保険契約に関する再審議を開始しました。

2014年1月のIASBとFASBの合同会議では、2013年6月にIASBとFASBがそれぞれ公表した保険契約に関する公開草案に対するコメント、アウトリーチ及びフィールド・テストの結果についての概要が提示されました。本会議において意思決定は行われていません。IASB及びFASBは、今後のボード会議において、これらのフィードバックに対処するための検討を行う予定です。

1. フィードバックの概要

2014年1月、IASB及びFASB（以下、両ボード）の両スタッフは、保険契約に関する公開草案¹（2013年6月公表）及びASU案²（2013年6月公表）に対するフィードバックの概要とその分析結果を提示しました。寄せられたフィードバックの主要なメッセージは以下のとおりです。

- 多くの回答者が、両ボードが重要な進展を遂げたと認識しており、2013年公開草案及びASU案は、それぞれ2010年公開草案及び現行米国会計基準を改善するものであると考えている。

¹ IASB 公開草案 (ED/2013/7)
<http://www.ifrs.org/Current-Projects/IASB-Projects/Insurance-Contracts/Exposure-Draft-June-2013/Documents/ED-Insurance-Contracts-June-2013.pdf>

² FASB 会計基準更新書 (Accounting Standards Update, ASU) 案「保険契約」
http://www.fasb.org/cs/BlobServer?blobkey=id&blobnocache=true&blobwhere=1175827217882&blobheader=application%2Fpdf&blobheadername2=Content-Length&blobheadername1=Content-Disposition&blobheadervalue2=2475707&blobheadervalue1=filename%3DProposed_ASU_Insurance_Contracts_%2528Topic_834%2529.pdf&blobcol=urldata&blobtable=MungoBlobs

- ただし、FASBのASU案については、複数の回答者が、短期契約に対する現行米国会計基準を変更することに反対している。
- また、多くの回答者が、公開草案及びASU案について、保険契約の忠実な表示を確保するために、追加の修正が必要であることを強調している。複雑性、会計上のミスマッチ及び有配当契約に関する主要な懸念事項が解決されない限り、保険契約に関する最終基準書の導入による便益が、その導入コストを上回ることはないと感じている。

主な懸念	
複雑性	<p>大部分の市場関係者が、2013年公開草案の複雑性に懸念を示し、以下を含む複数の領域について、簡素化することを提案している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ キャッシュフローの分離一有配当契約の測定及び表示、契約上のサービス・マージンの調整及び保険契約収益からの投資要素の除外 ■ 契約上のサービス・マージンを調整することとなるキャッシュフローの変更と、純損益又はその他の包括利益で認識することとなるキャッシュフローの変更の関係性 ■ ロック・インされた割引率の使用一利息費用の決定、契約上のサービス・マージンの調整額の決定及び移行時 ■ リスク調整の信頼水準の開示 ■ 経営者が現在使用していない情報一例：死亡給付の解約返戻金
会計上のミスマッチ	<p>以下により生じる可能性のある会計上のミスマッチに対する懸念が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 割引率の変更による影響をその他の包括利益に表示しなければならない(強制) ■ 有配当契約の会計処理(ミラーリング・アプローチの適用範囲が狭い)
有配当契約	<p>多くの回答者が、ミラーリング・アプローチについて、実務上の複雑性及び最低保証の取り扱いに深刻な懸念を示している。中には、ビルディング・ブロック・アプローチに基づくアプローチをすべての有配当契約に適用するべきであると提案する者もいる。</p>
サービスの意味	<p>保険契約のサービス及びその対価とは何かについて、多様な見解が示されている。これらの見解は以下に影響を与えることになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 契約上のサービス・マージンを調整することとなる見積りの変更の種類 ■ 契約上のサービス・マージンの期間配分の方法 ■ 契約に基づくサービスの提供を表す保険契約収益を純損益に表示する方法

- 財務諸表作成者の多くは、単一で、グローバルな会計基準を策定することは重要であると考えており、IASBとFASBのコンバージェンスを支持している。しかし、FASBのASU案に対する回答者のうち、財務諸表利用者及び損害保険会社の大部分は、現行米国会計基準の改善が主目的であり、コンバージェンスは副次的なものであると考えている。

2. 今後のスケジュール

IASBスタッフは、以下の事項に焦点を当てて審議する予定であり、今後の会議で対応策を示す予定です。

- その他の包括利益の使用及び有配当契約の取り扱いに関する重要な懸念への対処
- 契約上のサービス・マージンのアンロック及び移行規定を簡素化及び明確化する方法の検討
- 保険契約収益を純損益に表示する提案について費用対効果を評価
- その他の論点について再審議対象とすべきものを決定

次回のボード会議は、FASBは2014年2月、IASBは2014年3月を予定しています。

編集・発行

有限責任 あずさ監査法人

IFRS本部 IFRS Information Desk

ファイナンシャルサービス本部

e-Mail: AZSA-IFRS@jp.kpmg.com

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供できるよう努めておりますが、情報を受け取られた時点及びそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

©2014 KPMG AZSA LLC, a limited liability audit corporation incorporated under the Japanese Certified Public Accountants Law and a member firm of the KPMG network of independent member firms affiliated with KPMG International Cooperative ("KPMG International"), a Swiss entity. All rights reserved.

The KPMG name, logo and "cutting through complexity" are registered trademarks or trademarks of KPMG International.